

中国の旧正月「春節」

中国では4000年以上前から旧暦のお正月

を春節(チュンジエ)

と言ひ、全世界の華人にとつて1年で最も重要な祝祭日となります。

今年の春節は2月5

日、その前日の「除夕(チュウシー)」と呼ば

れる大晦日にあたる2月4日から7日間が祝日の

ため、企業やお店の殆どが閉まり人々もござって帰郷します。そのため地方からの出稼者が多い上

海市内は驚くほど閑散としますので、日本人の私達にとつて春節を上海で過ごすことは少し不便で寂しく感じます。

ちなみに春節を祝う国は中国含め、台湾・ベトナム・韓国等、約10地域

ナム・韓国等、約10地域あります。

また、中国の幾つかの

長期休暇の中で春節は特に「家族団らん」が重視され、一般的に家族で鶏や魚を食べるとされています。

ます。広大な中国では正月料理も地方によって異なります。例えば北部は

餃子、南部は湯圓(タンユエン)という、甘い白玉団子の入ったスープを

食べる習慣があったりと様々です。

そしてお祝いに飾り付

けもされ、玄関には「春聯(シュンレン)」という赤黄金を使った飾りを付け、夜には獅子舞が踊り

爆竹が盛大に鳴り響きます。もともと爆竹は春節

昔は帰省、今は海外旅行

に猛獣を払うための物でしたが、今ではその年の悪事を取り払い、新たな気持ちで新年を迎えるために爆竹が鳴らされているそうです。しかし、近年では大気汚染の問題もあり爆竹を制限する動きも見られます。

このように家族団らんが風習だった中国の春節も最近では旅行に行く人が増え、特に上海や北京などの都市部の富裕層の20〜30代の若者を中心に、海外まで足を伸ばす人も多くなっています。その理由の一つには帰省すると結婚はまだか？」

と両親や親戚から聞かれ、うんざりする若者も非常に増えているということもあるようです。このように日本同様、昔ながらの風習が徐々に薄れ、核家族化が進み、少子高齢へと連想させる事は何処の国も同じなのかなど、ふと考えさせられました。



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



稲田 義人

ゲストハウス総経理

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。